

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	豊田市こども発達センター ひまわり		
○保護者評価実施期間	2025年11月4日		2025年11月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2025年11月17日		2025年11月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 17
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種連携によるきめ細やかで幅広い支援 豊富な職場研修実施による職員の資質向上	臨床心理士による発達検査結果をもとに、療育活動や進路支援に活用しています。作業療法士に定期的に療育の様子を見てもらい、椅子や姿勢、摂食等に関する相談をリアルタイムで行ったり、言語聴覚士からの言葉の発達の研修などを取り入れています。	椅子の加工や姿勢、摂食に関することのみでなく、遊びや療育用具についてのアドバイスをうけ、療育活動を充実させていきます。
2	障がい児に対する支援体制の確保 移行支援・地域支援の推進 保育・教育等の関係機関との連携	こどもの発達や進路について、ひまわり職員全員で全ケースの進路検討を行い、進路の方向性を保護者に必ず伝えるようにしています。卒園後も定期的に地域園や学校、保護者へ連絡し、卒園後のアフターフォローも丁寧に行っています。	地域園への移行に対して不安を抱く保護者もいます。保護者が安心して進路先の生活を送れるように地域園や学校との連携、移行後の支援体制を丁寧に保護者に説明します。また、移行児支援をこれまで以上に充実させていくために、移行後の園訪問の機会を増やすなどの仕組みを整えます。
3	口腔機能やアレルギー、手の運動機能など、こどもの発達に合わせた職種連携による給食の提供	栄養士や作業療法士と担任とで情報交換しながら、楽しく食べる給食を心がけています。偏食対応も保護者の了解を得ながら随時行っており、こどもが食べられる食材の幅が少しずつ広がっていくようにかかわっています。	給食提供、食物形態、アレルギー対応を継続します。栄養士や作業療法士とも情報交換を丁寧に行い、引き続き「偏食支援」「楽しく食べる」給食を心がけます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援事業所への支援体制が不十分	児童発達支援事業所との並行利用児が増えてきていますが、相互の情報交換の方策についての検討が不足しています。	児童発達支援センターとしての役割を果たすためにも、情報交換を積極的に行う必要があります。今後は、情報交換会の企画やひまわりでの見学実習等の機会や開催時期の検討を行い、相互の職員同士で発達支援のスキル向上の機会を設けます。
2	事務作業や療育活動でのICTの活用が不十分	パソコン以外のICTデバイスがなく、紙面で作業する状況が続いています。	タブレット導入予定のため、使い方を学習したり疑問点などを共有したりする機会を設けます。
3			